

東アジア日本語教育・ 日本文化研究会報告

新羅大学院特別教授 藤井茂利

193

學會の懇親会も終り志賀學長先生に再度お禮を述べてお別れすることになった。一階のロビーの前で多くの會員の別れの挨拶を受け來年の再會を誓い合った。中に伊佐恭子會員からも挨拶を受けた。二次會への出席を誘ったが今朝五時に起きて、其の儘新幹線に乗ったので少し疲れているので遠慮すると言ったことでも別れることになった。

懇親會場のあったホテル「JuraSaki」から歩いて3分の處の或スナック店に行くことになった。崔光準先生、高繼芬會員、齋藤學會員、田上賢祐會員、崔榮殊會員のメンバーとなった。齋藤理事、崔會員には編集委員としてお世話になっており、田上會員には大連の時の學會から學會運営の手伝いをして下さっており良いメンバーが揃ったという感じがした。盃を傾けながら編集委員の苦勞話が話題にな

未だ問題になったままである。談話は取り止めない話が続いたが、午後も10時過ぎたので會合は終わり各々予約しているホテルに散っていった。歩いて3分予約していたホテル立願寺温泉に行き、久しぶりにゆったり温泉に浸って疲れをとるようになった。

秋の學會が終わると後は少しゆっくり出来るが、次の學會で何を発表するか考えておかなければならない。前々から問題としていた音仮名「移をや」と續む理由も発表の題材になるように考えていた。とは言えその場にならないと作業は始まり毎日ゆったりしている中にその年の暮れになった。12月20日が來た。誕生日である。88歳の米壽になった。韓國から學會の會員7名がお祝いに來日した。日本の家族、知人も祝宴に参加してくれた。あまり盛大にして欲しくなかったが、しかし有難かった。久々に村田名人のハーモニカを聞いた。斯くして19年の年は終った。

20年になって今年も頑張るつもりでいたが2月に入ってから世間の様子が一變した。新型コロナウイルスが日本にも伝染し始め、營業の停止、集會の禁止の令が次々にその筋から出されていった。來日した外國人は14日間ホテルの指定された處で待機、コロナ陰性者は入國できるといふ厳しさであった。それでもこの奇病は蔓延し始めた。

毎年2月に開催していた本學會の理事會も禁止となるため中止。會誌23輯に載せる論文も委員に一任する形になった。例年その年發行會誌の序文も委員に郵便直送となった。その序文は、
本學會の研究論集23輯を發行することが出来ました。會員の皆様共々喜び合いたいと思えます。この論集に載せた論文は19年8月25日熊本県玉名市にある九州看護福祉大學での學會で口頭発表し論文の形にして提出した14編をきびしく査読した結果の9編であります。お忙しい時期に査読して下さった方々にこの場を借り

てお禮申し上げます。
(中略) 今回の學會運営で九州看護福祉大學の高繼芬先生に大変お世話になりました。舊會員の高杉志緒様が受付業務を献身的にして下さいました。會員ではありませんが会場校の學生さんも雑務を献身的にして下さいました。有難うございました。
20年2月に入って新型コロナウイルスによる奇病が世界中に蔓延し、理事會の會合も暫くの間開催不可能になり、従って今回の會誌の發行も遅くなりましたが、本學會はそれら奇病に負けず學門の成果を掲げていることは何よりであると思えます。
という内容になった。(中略) した處は講演して下さった九州看護福祉大學の高木義紀先生、新羅大學校の崔光準先生の題目と會員一同學會にふさわしい講演に感動した内容である。
兩先生に心からお禮を申し上げます。